第57回「おかねの作文」コンクール

特選　日本PTA全国協議会会長賞

お金の価値

兵庫県・加古川市立氷丘中学校　２年　池上　由麻

　それは、10歳の誕生日が近づいていた頃のことでした。私は毎年祖母と一緒に買い物に行き、そこで欲しいと思ったものをプレゼントしてもらっていました。しかし、その年は今まで通りではありませんでした。

　当時、周りの友だちには誕生日に品物ではなく、現金をそのままもらっているという人が増えていました。

「私、5,000円ももらったの。」

「俺はお金を貯めてるから３万円も持ってるねん。」と、手元のお金が多ければ多いほど格好良いという謎のステータスが流行していました。今になっては他人に自分の所持金を晒(さら)すなんてみっともないと感じますが、まだ幼かったからかそのようなことは考えもしませんでした。むしろ、４年生にもなっておばあちゃんと買い物に出かけるのはなんだか恥ずかしいな、皆と同じようにしたいなという焦(あせ)りから母に言ってしまったのです。

「今年の誕生日はおもちゃとかを買うんじゃなくて現金が欲しいねん。」

すると、母は一瞬驚いた顔をしてから、

「どうしてそうしたいの。」

と私に尋ねました。もちろん「子供っぽくて恥ずかしいから。」という理由を答えるわけにはいかないので、

「将来のために貯めておきたいねん。」

と返すと、それは良いことだと言わんばかりにうれしそうな様子で「また伝えておく。」と了承してくれました。私はバツが悪くなり、すぐに自室に戻りました。

「まあ、お金を貯めたいのは本当のことだし。」

と自分に言い聞かせるようにして。

　数日後、祖父母の家を訪れる機会がありました。すると、やはりその話題を持ち出されたのです。

©J-FLEC2024

「貯金するのはめっちゃええことやけどな、直接お金を渡すのは味気なくないか。せやからいつもみたいに買い物しようよ。その時に好きなもんいっぱいこうたるで」と祖母は胸を高ならせて言いました。しかし、私は自分の考えをうまく説明できないことにイライラし、初めて祖母に嘘(うそ)をついてしまいました。最近は習い事が忙しいからと私が言うと、「そうか、頑張ってな。」と答えてくれましたが、その声はどこか悲しげでした。何てひどいことをしてしまったのだろうという罪悪感に襲われて、その後の話はほとんど覚えていませんでした。そして、その夜は今でも記憶に残っているほど寝つけませんでした。

誕生日当日、親せきの方々にいただいたたくさんの贈り物の中に祖母からのプレゼントがありました。しわ一つないきれいな新札と丁寧でありつつ力強い字のお手紙が共に。そして、そこにはこう書かれていました。

「これで好きな物をたくさん買って下さい。最近由麻の欲しいものが分からなくてごめんね。良いお誕生日になることを願っています。」

ずっと憧れていた現金のプレゼントでしたが、それを使う気にはなれませんでした。自分は最低なことをしたのに、どうしてこれほど優しくしてくれるのかと本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。そして、それと同時に祖母は私にお金をあげるだけでなく、それを使って孫と楽しく過ごしたい、楽しませてあげたいという思いが感じ取られ、今さらながらにとても後悔しました。

私は、いたたまれなくなり、すぐに電話をかけることにしました。

「プレゼント、ありがとう。大切に使わせてもらうね。でも、今度は一緒に買い物に行こう。」

そう言うと、電話越しだけれど祖母のうれしそうな表情が目に浮かんできました。

私はこの出来事を通して、世の中にはお金では買えない、それ以上に価値があるものが存在すると重々実感しました。現在、世の中はお金が全てだ、もっとお金が欲しいと考えている人も多いですが、本当にそれでいいのでしょうか。当然お金は大切なものであり、生きていくうえで必要不可欠ですが、その金額だけにとらわれ、それに込められた価値を見落としてしまっているのではないでしょうか。私はお金を使うことで人と人が結びつけると思っています。ですから、自分のためだけでなく周りの人のためにもお金を使い、その上人の心を晴れやかにしようとする祖母の姿勢は素晴らしいものだと痛感しました。お金

©J-FLEC2024

は、時には値段以上の価値になります。私は、このことを忘れずに胸にしまって生活し、何円であっても大切に使うことを心がけたいと思います。大きくなったら次は私が祖母のためにお金を使い、一緒に楽しいことをして喜ばせてあげたいです。

©J-FLEC2024